

## 賀屋興宣

『評伝賀屋興宣』は、戦前、戦中、戦後を通ずる狂瀾と怒濤の中を、日本民族のために一筋の眞實をもつて生き抜いた人間賀屋興宣の波瀾に富んだ生涯の軌跡である。

先生は、官界にあつては群峰の中でひと際目立つた秀峰であつたが、政界においても類い稀な偉材として尊敬され評価された人である。先生は、常に大所高所から国家と民族の行方を冷静に見究められる鋭い思想家であつたが、やむにやまれず国民の先頭に立つて困難に立ち向う力強い実践的な指導者でもあつた。

先生は人間として、その思想においてもその実践においても極めて強い人であつたが、同時に人に対してこまやかな配慮を怠らない優しい人であつた。さればこそ、先生の人格に私淑し傾倒し、先生を慈父のように慕う人が凡ゆる職業を通じて極めて多かつた。

私自身も先生の弟子を自認している一人で、先生の知遇を得たことを誇りにも感じ、倅せとも

## 6. 追慕塔

思っている。しかし、時に先生と所見を異にし、鋭く対立したことも皆無ではなかった。先生は、そのために私に対して微塵も感情的になられたことはなく、常に淡々として公事に処し、益々暖い愛情で私を包んでくれた。私は、年とともに先生に対する敬慕の念を深くしていったものである。

わが国内外の情勢はまことに容易ではないが、わが国の進路を示唆するものとして、あるいは公人の歩むべき道を垂範されたものとして、本書の一読を広く江湖に薦めたいものである。

(昭、五二・四・二八『評伝賀屋興宣』序)